東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会５０周年記念イベント
山岳リレー一班山行補助報告
日時２００９年7月１９日―7月２１日
７月１９日―２０日山岳リレー一班報告通りにて参照下さい。
７月２０日　鑓温泉分岐点（１３：４３）－白馬鑓温泉小屋（１６：１５）
分岐点で一班　藤原、鈴木、和久井３氏の今後の縦走の無事を祈って、握手を交わし小沢夫妻、和田が鑓温泉に向って下山を開始した。急な下り道は尾根道を辿る彼らの姿をすぐ小さくしてしまい、後は今にも落ちてきそうな雪渓が岩の稜線にへばりつき、青い空に浮かぶように見えるだけだった。高山植物の咲き乱れる中を下るが思ったより急峻で鎖場が幾つも登場した。かなり新しい鎖がついており、安定性は良いがその中の幾つかは小さな滝の水を浴びるトラバスとなっていた。急な傾斜を飛ぶように下りて来た人が「小屋に近づくと危険な所があるので気を付けてください」と云って、降りていった。なおも急な道を辿ると正面下方に大きな雪渓が現れた。急な広い雪渓の上に赤い染料が撒かれ、下へ繋がっている。手前に夏道が雪渓の縁を下っている。雪渓を下っている人が何か叫んでいる。小沢君が雪渓の縁に急いで降りると雪渓の上の人が何か叫びながら上り返してきた。雪渓の縁でその人と会うと「アイゼンをもっているか」と聞いていたらしい。ストックしか持っていないことを知り、彼は新品のアイゼンを「私も未だ使ったことのないアイゼンです」と云いながら小沢君の奥さんに貸してくれた。そしてストックで足の滑りを止めるようにしながら再び我々と共に降り始めた。雪渓は急な下りで５００m程ありその先に鑓温泉小屋が見えた。この小屋は毎年造り替えるらしい。霧が掛かり眺めはないが山間の露天風呂で疲れを癒した。湯船の直ぐ下にテント場があり、小沢君ご夫妻が設営中だった。
小屋の食事は味噌汁の薄さが気になったがまあまあのものだった。白馬大池小屋は自分のスペースが半畳だったが、此処は１畳で楽に寝られた。夜半から酷い雨になり、翌朝も雨模様だった。今年の雪渓下りは我々が最後で次の登山者は夏道を通る事となったそうだ。
２１日白馬鑓温泉小屋（６：３０）－　猿倉（１１：００）
昨日の雪渓の下には大きなシュルンドが口を開けていた。下山は、モレーン状に盛り上がった所から雪渓に入り急斜面を７００m 程下り、斜めに２本ほどの雪渓を上り返すと昨年白馬鑓の斜面からの崩落で道の変った所に出る。先行のパーティーが慎重に渡る。今でも崩壊は続いているらしい。地塘のある場所を過ぎ峠を越えると後は猿倉への下りでそれほど酷い雨も無く無事下山できた。第５駐車場までタクシーを利用し、川沿いの温泉に入り疲れを癒し、昼のそばを食べていると本格的な雨となり、縦走組が歩いているか心配になる。針の木ルートのトレーニングにしては結構きつい山行だった。今後の反省として多少の雪渓でもアイゼンの準備はしておく事は大切と感じた。今回山行の最初から最後まで同行する事になった小沢君ご夫妻に感謝します。又、しじま山荘に応援に駆けつけてくれた各位に有難うと申し上げます。